

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 渡辺 愛  
所属 (School) 生命環境科学域 応用生命科学類  
生命機能化学課程  
学年 (Grade) 学部 4年

留学先 (Name of overseas institution)  
ノルウェー科学技術大学 (トロンハイム)  
留学期間 (study abroad period)  
2016年10月7日~11月7日

## 留学レポート Study Abroad Report

私は、ノルウェーのトロンハイムにあるノルウェー科学技術大学 (NTNU) へ1ヶ月間、留学しました。留学中は、NTNUの教授、研究員の方々にご指導いただき、大学が所有する高度な実験装置を用いて、卒業論文のテーマである、モズク由来の多糖「フコイダン」についての研究を行いました。



トロンハイムでの1ヶ月はとても充実していました。今回の留学で初めて使用する機器の原理について調べて勉強したり、教授にいただいた英文の参考資料を読んだり、実験で得たデータをまとめて解析したりと、常にすべき課題に囲まれて新しく得る事が多くあったためです。さらに、用意してもらった大学での自分専用の自習スペースは空き時間はもちろん土日日も利用可能だったので、日本にいる時よりも集中的に勉強することができ、良い環境だったと思います。

留学中に使わせてもらったラボでは、当たり前ではありますが、日本の自分が所属する研究室とは異なるルールも存在し、使い方を教えていただいた機器を実際に使用する時など、注意を払わなければならない場面もありました。機器の使い方や実験サンプルの調製の仕方、濃度などは間違えると機器を壊したり、正しい結果が得られないこともあります。そのため、説明を受ける際は日常会話以上に集中して、聞き漏らさないようにすると同時にその内容を理解していく必要があったので、リスニング力が鍛えられました。説明の内容に専門用語や固有名詞が多いこともあり、聞き取りに苦戦することもありましたが、その語句を調べたり、改めて詳しく説明していただいたことで、知識を得ることが出来ました。数種類の機器で「フコイダン」について分析を行い、良い結果が多く得られたので、研究面から見ても、今回の留学は大変有意義なものとなりました。

自分の研究とは別に、NTNUの学生と4人1グループで行う学生実験に参加しました。学生実験中は英語が使用され、説明や注意事項はもちろん、学生同士のコミュニケーションも英語だったので、ノルウェー語が出来ない私も参加することができました。実験内容自体はそれほど難しいものではありませんでしたが、お互いが母国語でない英語を使って進めていくため、同じグループの学生と実験の操作手順やそれぞれの役割分担など、些細なことでも確認しつつ、行ったことがとても印象的でした。グループで1つの実験を行うことで、それぞれ自分の考えやその過程、計算方法を説明して正しく伝え、互いに納得しながら進めていったので、実験の内容だけでなく、英語でコミュニケーションを取り合えたことも良い経験となりました。



1ヶ月間の滞在先は、キッチンとバスルームが共有で個別に1部屋が与えられるユースホステルでした。元トロンハイムの治安が良い上に、宿舎が町の中心地から離れた丘の上に位置していたため、とても静かで眺めも良く、部屋ではリラックスして過ごせました。また、個別の部屋には、ベッドとクローゼットの他に勉強ができる机があり、Wi-Fi環境も整っていたため、大学から帰宅後もネットを使った調べものや、レポートをまとめることもできたので、勉強するにも良い環境でした。



平日は6時頃に起床し、朝食やその日のお昼ごはんなどを準備して7時半頃学校へ向けて出発しました。朝はまだ暗く日本の真冬程の寒さの中、30分ほど歩いて大学へ通いました。トロンハイムでは自転車が普及していることもあり、リュックを背負い反射板やライトを体につけて自転車で通勤通学する現地の人と何度もすれ違いました。

お昼ごはんは学内の食堂を利用しました。サラダバーやスープがあり、メインの料理は毎日変わり、味も日本で食べる洋食と似ていたため、飽きることもなくて、おいしかったです。朝作ったサンドイッチとスープとサラダ、食堂で出されるお肉やグラタンなどバリエーション豊かな昼食を取ることが出来ました。



毎週金曜日はトロンハイムでは馴染み深い『ミルク粥』がありました。ミルクで炊いたお粥に砂糖とシナモンをふりかけて食べるのですが、甘いお粥という珍しい味で、温かいデザートのような感覚でした。また、ハロウィンには、ケーキやお菓子が用意され食堂のスタッフ全員が仮装していて、とても楽しい雰囲気味わえました。



休日は、夕方まで学校で勉強した後、町の中心地へ行きアイスを食べたり、お土産を買ったり、レストランで晩ごはんを食べるなどして、息抜きをしていました。日曜日はモールやレストラン、スーパーマーケットもほとんどの店が休みになるので、土曜日にスーパーマーケットで食料品のまとめ買いをしていました。トロンハイムのスーパーマーケットは日本のものと似ていたため、買いやすかったです。食生活はパンが中心で、特にチーズやサーモン、魚介類がおいしかったです。町のレストランには寿司店も何軒もあり、ノルウェーの特産であるサーモンを使っていることもあって、現地の人にも大変人気がありました。

今回は勉強が忙しかったため観光へ行けませんでした。トロンハイムの1ヶ月間で一度だけオーロラを見られたことは大変良い思い出です。それまでは、北極に近い山奥でしか見ることが出来ないという印象が強かったので、大学の帰り道にオーロラが出ていた時は驚きましたし、期待していなかった分とても興奮しました。



さらに、日本語を勉強していて、日本でホームステイをしたこともあるNTNU学生と偶然の出会いもありました。日本から遠く離れた、ノルウェーで日本語を勉強している学生がいることに私が驚いたように、相手も日本語で会話できるのは面白いし、変な感覚だと話していました。その後も、食堂で何度かお昼ごはんを一緒に食べ、日本へ帰国する前日には夕食に招待してもらいました。同じく日本語を勉強している友だち2人と共に、サーモン料理を食べたり、ゲームをしたりして打ち解けることが出来て嬉しかったです。

今回の留学を通して、英語面はもちろん、自分の研究や勉強に対する意識を良い方向へ変えることが出来ました。このように留学する機会をいただけたことを大変幸せに思っています。特に、研究室への配属直後から留学を後押ししてくださった先生と、日本でもノルウェーでも助けていただいた一緒に留学された先輩に心から感謝しています。留学直後の今の気持ちや向上心を忘れることなく、今後もさらに頑張っていきたいです。